

平成 28 年度
横須賀美術館 事業計画書

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 28 年（2016 年）4 月

横須賀美術館

平成 28 年度 横須賀美術館事業計画

～より多くの方に愛される美術館に～

横須賀美術館は、平成 19 年度の開館以来、美術を通じたさまざまな交流の機会を提供し、市民の美術に対する理解と親しみを深めるための事業を展開してまいりました。観覧者数は、開館当初目標としていた年間 10 万人をほぼ毎年達成し、開館 9 年目にあたる昨年度、のべ 100 万人に到達いたしました。

これからも横須賀美術館が掲げる 3 つの使命を果たしつつ、さらに多くの方に利用される美術館となることを念頭に置き、平成 28 年度の実業計画を策定いたしました。

「自然と美術の標本展」をはじめとする幅広い関心に応える展覧会や、ワークショップ、ギャラリートークなどの教育普及活動の一層の充実を図り、美術館の魅力を広く発信し、市民に愛され、地域に親しまれる美術館を目指して、事業を展開してまいります。

◎横須賀美術館の使命・目標

- I 美術を通じた交流を促進する
 - ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
 - ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

- II 美術に対する理解と親しみを深める
 - ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
 - ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
 - ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

- III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する
 - ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
 - ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

- ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。

Ⅰ 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

【展覧会及び観覧者数（見込）】

展覧会名		会期	観覧者数(人)	備考
企画展	嶋田しづ・磯見輝夫展	4/1-4/10	2,000	H27 事業
	さくらももこの世界展	4/23-6/19	22,000	
	自然と美術の標本展	7/2-8/21	23,000	
	女性を描く クールベ、ルノワールからマティスまで	9/3-10/23	24,000	
	新宮晋の宇宙船展	11/3-12/25	10,000	
	第69回児童生徒造形作品展	1/12-1/30	14,000	
	中村光哉展	2/11-3/31	9,000	
所蔵品展のみの期間		上記以外	5,000	
計			109,000	

2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
- ・公共交通機関への広告掲出
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催
- ・年間パスポート、前売券の販売

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
- ・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

(4) 団体集客の推進

- ・市内民間事業者と連携した企画（ツアープランなど）の検討、提案
- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
- ・ウェルカムトークの実施

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
- ・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施

【達成目標】 年間観覧者数 100,000人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考へながら展覧会を決定しています。
- ・一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況

(単位：人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
見込み (A)	104,000	102,000	104,000
実績 (B)	101,841 (107,761)※	113,007	114,861
達成率 (B/A×100)	97.9%	110.8%	110.4%

※ ()内は、特別企画展の観覧者数を含んだ人数。

【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
 - ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
 - ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
 - ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
 - ・ 商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。
-

〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・ 市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・ 広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・ そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

- (1) ギャラリートークボランティア 年 65 日程度
 所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 50 回)
 * ボランティアを募集し、研修を実施します。(10 回)
 * ボランティアの自主研修を補助します。(5 回)
- (2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 50 日程度
 小学生美術鑑賞会で来館する小学 6 年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 42 回)
 * ボランティアを募集し、研修を実施します。(10 回)
- (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度
 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。
 * ボランティアを募集します。
- (4) プロジェクトボランティア 年 30 日程度
 ボランティアイベントの企画・準備・実施をします。
 時期：春、夏、秋、冬の 4 回
 * ボランティアを募集し、原則として毎月 2 回会議を行います。
- (5) プロジェクト当日ボランティア 年 4 日程度
 プロジェクトボランティアが企画したイベントの補助をします。

(美術館ボランティアの活動日等一覧)

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT: 毎週日曜日 研修: 日曜日	隔年 4～5 月 * 28 年度は 募集年	年間 6 回	1 年間(更新有)
(2)	6 月～3 月の平日 研修: 木曜日	毎年 4～5 月	年間 10 回	1 年間(更新有)
(3)	毎月第 3 土曜日	随時	なし	1 年間(更新有)
(4)	原則として毎月第 2・4 土曜日、 イベント準備日・開催日	随時	なし	1 年間(更新有)
(5)	年 4 回	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ2,000人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなるものです。
- ・ギャラリートークボランティアを新規募集するため、研修の回数は27年度より多くなります。
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアを来年度も募集するので(継続も可能)、参加者の増加を期待しています。
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは2～3名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、平日の活動がやや増えています。また近年、イベントへの一般参加者数は、スタッフの人数と会場のキャパシティからみて、安全に楽しむことのできる限界に近付いていると考えられますが、同じ内容で2回実施するなど、工夫もしています。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、28年度の目標は、のべ2,000人とします。

市民ボランティア協働事業へののべ参加者数

(単位：人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (目標)
ギャラリートークボランティア	477	323	284	200
小学生美術鑑賞会ボランティア		194	180	262
みんなのアトリエボランティア		28	20	24
ギャラリートーク参加者	326	345	274	300
プロジェクトボランティア	337	229	210	220
プロジェクト当日ボランティア		50	38	50
企画イベント参加者	1,434	1,086	1,142	1,000
計	2,574	2,255	2,148	2,056

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

II 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。今年度は、春にはポピュラリティのある展覧会、夏に博物館と連携した現代美術の展覧会、秋に女性を主題にした海外展を準備しています。また、他に現代美術や横須賀ゆかりの作家による染色の展覧会、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

i さくらももこの世界展

4月23日(土)～6月19日(日)

- ・「ちびまる子ちゃん」の作者として知られるさくらももこ(1965-)の、表紙絵や絵本の原画約130点を中心に、立体作品やコレクション、音楽とかかわる仕事やエッセイの原稿などを展示し、その作品世界をご覧ください。

ii 自然と美術の標本展

7月2日(土)～8月21日(日)

- ・標本(植物、鉱物など)をテーマにした展覧会。博物館と連携し、実際の標本と、現代作家6組(江本創、鉱物アソビ、橋本典久、原田要、plaplax、山本彌)の作品をあわせて展示します。

iii 女性を描く クールベ、ルノワールからマティスまで

9月3日(土)～10月23日(日)

- ・産業化と機械化の発展により、大きく変化したフランスにおける1850年から1939年の絵画の歴史を、「肖像」「画家とモデル」「家庭」「労働」「余暇」「夢の女」というテーマに沿い、女性像を紹介する展覧会です。

iv 新宮晋の宇宙船展

11月3日(木・祝)～12月25日(日)

- ・風や水といった自然エネルギーを受けて、ユニークな動きをみせる屋外彫刻で知られる新宮晋(1937-)が、美術館という屋内空間に挑む個展。海の広場には、世界中を旅した「ウインド・キャラバン」が出現します。

v 第69回児童生徒造形作品展

平成29年1月12日(木)～1月30日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護学校74校園より選抜された子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

vi 中村光哉展

2月11日(土)～4月16日(日)

・横須賀の港の風景を友禅の技法で表現した、染色作家・中村光哉(1922-2002)。本展では、当館の所蔵作品に、ろう染めによる初期作品を加え、色彩豊かな中村光哉の世界の全貌をご紹介します。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展 …… 年4回開催

- i 第1期所蔵品展 4月9日(土)～7月3日(日)
- ii 第2期所蔵品展 7月9日(土)～9月25日(日)
- iii 第3期所蔵品展 10月1日(土)～12月11日(日)
- iv 第4期所蔵品展 12月17日(土)～平成29年4月9日(日)

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 5回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)

(2) ワークショップの開催 6回

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

・展覧会に関連したワークショップ 3回

・大人向けワークショップ 3回

・開催：土日 定員：各20名程度(事前申込制)

(3) 映画上映会の開催 2回

優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会(シネマパーティー)を開催します。

・開催：年2回 定員：25名×2回(事前申込制)

(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 10回

展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

・企画展毎に1、2回程度 開催：土日(当日自由参加)

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時

学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万8千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵図書の充実

・一般的な美術書に加え、企画展に関連する書籍や子供向けの美術絵本、貴重な美術雑誌(古書)などを購入し、魅力のある蔵書の構築を図ります。

・古書の補修をし、保存や利用に適した状態にします。